

西南開発地域  
南予総合開発地域

---

土地分類基本調査

---

田 野 々

5.万分の1

国 土 調 査

高 知 県  
愛 媛 県

1 9 7 7

## 序 文

国土が現在及び将来における国民のための限られた資源であり、この貴重な国土を如何に有効に利用し、保全してゆくかを考えることが現代に課せられた大きな使命であると思います。そのためには、国土の実態を把握することが大切であり、実態把握の上に立った土地利用が考えられなければなりません。

本調査は、土地利用上の基礎である地形、表層地質、土壌の土地条件、土地保全条件、土地利用現況等を化学的、総合的に調査し、既に策定された計画の適正な実施を図るのみならず、地域の特性に応じた国土の利用や規制に関する企画、立案等の基礎資料とするものです。

高知県では昭和49年度から、愛媛県では昭和45年度からこの調査に着手し、別図（調査地域一覧図）のとおり昭和51年度調査を含めて、高知県では6図幅、愛媛県では18図幅の調査を終りました。なお、この中において「田野々」図幅は高知・愛媛県にまたがる関係から、調査そのものは両県区域に分けて分担し、印刷のみは合同で行うことにしました。従って、文章表現等に一部工夫を欠く箇所が生じましたが御了承ください。

最後に、これらの成果が各分野にわたり広く活用されることを希望いたしますとともに、当調査の実施に当り、御指導、御協力をいただきました国土庁、関係市町村、調査担当の皆様深く感謝の意を表します。

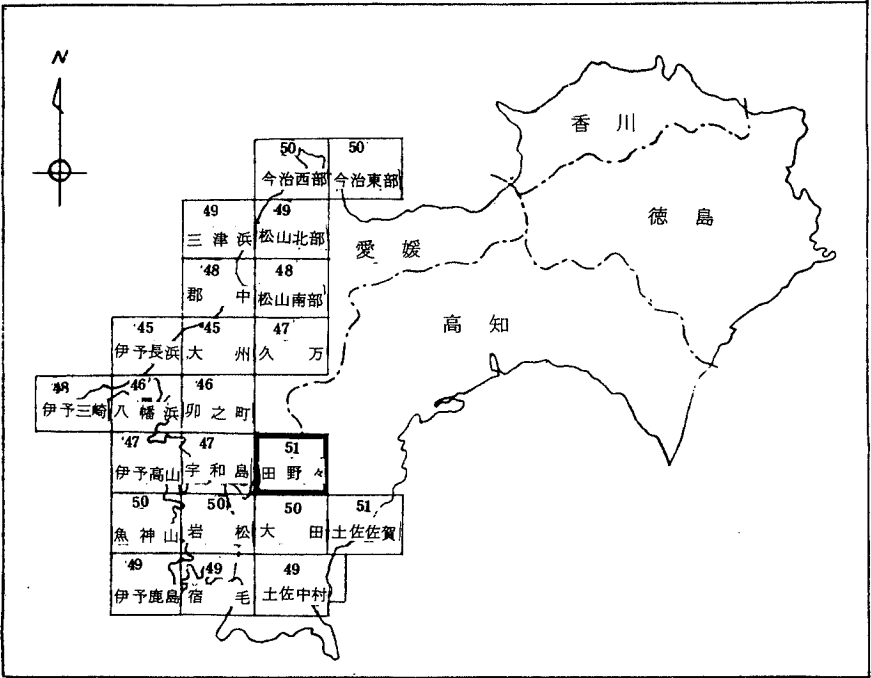
昭和52年3月

高知県企画部長 西尾 一雄  
愛媛県農林水産部長 旅井理喜男

## 調査担当機関及び関係担当者

総 合 企 画	国土庁土地局国土調査課		
総括・調査・編集	高知県企画部土地課		
	愛媛県農林水産部農地計画課		
地形分類調査	高知県立須崎高等学校	教諭	西 和 彦
	愛媛県立大洲高等学校	教諭	芳我 幸正
	愛媛県立松山北高等学校	教諭	河 合 啓
表層地質調査	高知大学文理学部	教授	甲藤 次郎
	愛媛大学教育学部	教授	坂上 澄夫
	愛媛大学理学部	助教授	鹿島 愛彦
	今治明德短期大学	教授	永井 浩三
	愛媛県立八幡浜高等学校	教諭	友沢 悟
	松野町立松野中学校	教諭	芝 光 恭
土 壤 調 査	高知県林業試験場	育種科長	入交 幸三
	高知県農林技術研究所土壌研究室長		久保田増栄
	愛媛県農林水産部林政課林業専門技術員		清 水 敬
	愛媛県農業試験場	主任研究員	丹原 一寛
関 連 調 査			
( 傾斜・標高区分調査 )	高知県立須崎高等学校	教諭	西 和 彦
	愛媛県立大洲高等学校	教諭	芳我 幸正
	愛媛県立松山北高等学校	教諭	河 合 啓
( 水系・谷密度調査 )	高知県立須崎高等学校	教諭	西 和 彦
	愛媛県立大洲高等学校	教諭	芳我 幸正
	愛媛県松山北高等学校	教諭	河 合 啓
( 防 災 調 査 )	高知大学文理学部	教授	甲藤 次郎
	今治明德短期大学	教授	永井 浩三
	愛媛県農林水産部農地計画課国土調査係長		小 池 徹
( 土地利用現況調査 )	高知県農林部林業課 森林計画班長		十万 喜隆
	〃	主幹	久野和三郎
	高知県農林技術研究所土壌研究室長		久保田増栄
	愛媛県立松山北高等学校	教諭	河 合 啓

# 調査地域一覧図



# 目 次

## 序 文

## 総 論

I 位置及び行政区画	1
II 地域の概要	3

## 各 論

I 地形分類図	9
II 表層地質図	14
III 土 壌 図	17
IV 傾斜及び標高区分図	23
V 水系・谷密度図	25
VI 防 災 図	26
VII 土地利用現況図	27

# 總論

# I 位置，行政区画

## 1 位 置

「田野々」図幅は四国の西南に位置し，高知・愛媛の両県にまたがり，東経132°45′から133°00′まで，北緯33°10′から33°20′までの範囲内にあり，面積430,79 Km<sup>2</sup>の地域である。

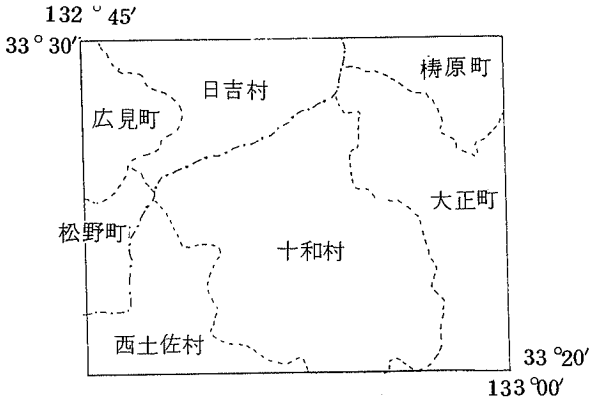
## 2 行政区画

今回の調査対象地域は高知・愛媛の両県にまたがり，高知県は十和村，大正町，西土佐村及び梶原町であり，愛媛県は日吉村，広見町及び松野町の行政区画からなっている。

第1表 市町村別面積

県名	区 分 市町村名	図 幅 内 面 積		市町村全面積 B (Km <sup>2</sup> )	A/B (%)
		実数 A (Km <sup>2</sup> )	構成 (%)		
高 知 県	幡多郡十和村	155.47	36.1	1636.0	95.0
	〃 大正村	88.85	20.6	1995.1	44.5
	〃 西土佐村	58.24	13.5	2479.0	23.5
	高岡郡梶原町	27.53	6.4	2363.4	11.6
	計	330.09	76.6	8473.5	39.0
愛 媛 県	北宇和島郡日吉村	54.60	12.7	889.1	61.4
	〃 広見町	27.00	6.3	1523.1	17.7
	〃 松野町	19.10	4.4	986.6	19.4
	計	100.70	23.4	3398.8	29.6
合 計		430.79	100.0	1,187.23	36.3

第1図 行政区画



世帯 人  
 世帯 人  
 世帯 人  
 世帯 人



## Ⅱ 地域の概況

### 1 特 性

当地域は、山地の中をぬって流れる四万十川等の河川流域にわずかに開けた平地に、集落が点在する典型的な山村地帯で、豊かな自然に恵まれている。

### 2 人 口

当図幅内関係市町村人口は41,979人、世帯数は12,117世帯（昭和50年度国勢調査概数）である。昭和45年度の45,853人、12,376世帯に対し、それぞれ8.4%、2.1%の減少となっており、過疎化の激しい地域である。

第2表 市町村別人口

県名	区 分 市町村名	人 口 世 帯 数				増 減 数		増 加 率 (%)	
		50年		45年(A)		50年-45年(B)		(B)÷(A)	
		人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数
高 知 県	幡多郡 十和村	5,110	1,298	5,468	1,342	△358	△44	△6.5	△3.3
	" 大正町	4,033	1,225	4,585	1,287	△552	△62	△12.0	△4.8
	" 西土佐町	5,179	1,514	5,806	1,570	△627	△56	△10.8	△3.6
	高岡郡 構原町	6,170	1,929	7,011	2,049	△841	△120	△12.0	△5.9
	計	20,492	5,966	22,870	6,248	△2,378	△282	△10.4	△4.5
愛 媛 県	北宇和島郡 日吉村	2,609	726	2,964	776	△355	△50	△12.0	△6.4
	" 広見町	13,058	3,761	13,824	3,692	△766	69	△5.5	1.9
	" 松野町	5,820	1,664	6,195	1,660	△375	4	△6.1	0.2
	計	21,487	6,151	22,983	6,128	△1,496	23	△6.5	0.4
合 計		41,979	12,117	45,853	12,376	△3,874	△259	△8.4	△2.1

- 資料 1. 昭和50年は、国勢調査の概数による。  
2. 昭和45年は、国勢調査による。

### 3 気 候

当図幅内における気象観測所は、江川崎、下鍵山、観測所であり、隣接地域に大正、松野観測所がある。昭和50年の気象概況は第3表のとおりである。

江川崎観測所で年平均気温15.5℃、年間降雨量2,750mmであり、温暖、多雨型の気候である。

第3表 気 象 概 況

月間平均気温℃

昭和50年

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
江川崎観測所	4.0	4.3	8.2	14.6	18.2	22.1	26.2	26.0	24.8	18.4	12.2	6.7	15.5
大 正 "	(4.6)	4.8	8.8	15.1	18.4	22.5	26.3	25.8	24.9	18.9	12.9	7.3	15.8
下鍵山 "	3.6	3.4	8.1	14.5	16.5	22.2	27.8	-	-	-	12.1	6.4	-
松 野 "	5.0	4.6	8.2	15.4	17.8	22.7	26.7	(26.5)	25.3	19.2	12.3	6.8	15.9

月間最高気温の平均℃

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
江川崎観測所	9.0	9.3	14.9	20.0	22.7	27.0	30.8	30.2	29.3	22.9	17.9	11.6	20.5
大 正 "	9.3	9.5	15.0	20.0	22.5	26.9	30.4	29.5	29.0	22.9	18.2	12.2	(20.5)
下鍵山 "	7.9	7.6	13.8	19.8	21.8	26.5	31.7	-	-	-	17.4	10.8	-
松 野 "	9.2	9.1	14.1	20.7	22.9	27.2	31.3	(30.8)	30.1	23.7	18.1	12.1	20.8

月間最低気温の平均℃

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
江川崎観測所	-1.0	-0.8	1.5	9.1	13.6	17.1	21.5	21.8	20.2	13.9	6.4	1.7	10.4
大 正 "	-0.3	0.1	2.5	10.2	14.2	17.8	22.3	21.9	20.7	14.8	7.5	2.4	11.2
下鍵山 "	-0.8	-0.7	2.3	9.1	11.1	17.9	23.8	-	-	-	6.6	2.0	-
松 野 "	0.7	0.1	2.3	10.0	12.7	18.1	22.1	(22.2)	20.5	14.6	6.0	1.4	10.9

月 間 雨 量 mm

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
江川崎観測所	110	140	97	232	116	505	181	669	188	262	144	106	2750
大 正 "	119	133	169	264	192	542	396	995	247	328	215	95	3695
下鍵山 "	150	143	67	139	88	443	156	-	-	-	100	84	-
松 野 "	107	133	83	224	95	449	155	529	102	235	124	77	2313

資料 高知気象台、松山気象台による。

備考 カッコ書きは、月のうち1割以内の日数を欠測した場合。

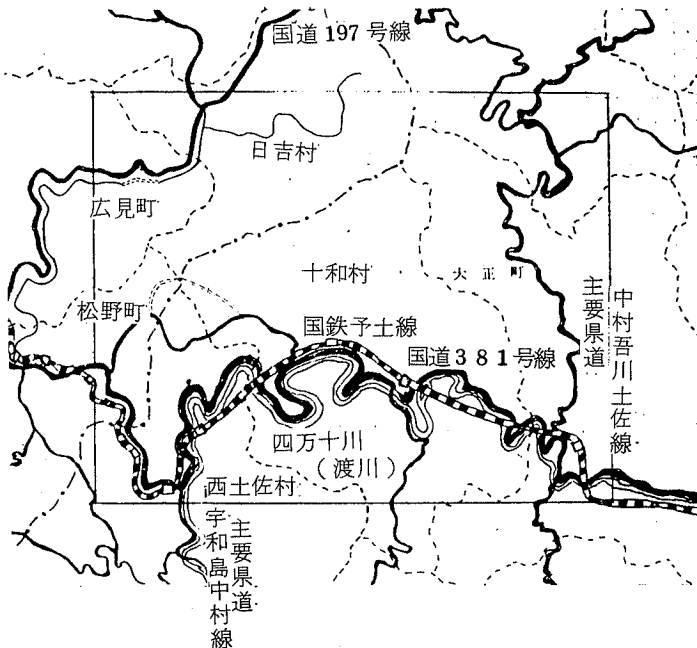
#### 4 交 通

当地域は四国の西南部に位置し、山岳地帯であり、地理的にも恵まれず交通体系は全般的に整備が遅れているが、国鉄予土線の開通（昭和49年3月）及び国道381号線の改良により、だんだん整備されてきている。国鉄予土線と国道381号線は四万十川と平行して図幅内南部を東西に通っており、国道197号線はわずかではあるが北西部を走っている。

又、主要県道として中村吾川土佐線、若干ではあるが宇和島中村線が走っている。

既設道路の改良が各所で進められているが、計画道路の主要なものとしては、四国西南山地大規模林業圏開発事業の一環である林道網の整備拡充があげられる。

第2図 道路・鉄道位置図



## 5 産 業

図幅内関係町村は山岳地帯にあり、林野面積が全体の9割ちかくを占めている。産業としては農林業が主体でその他、商業・サービス業、建設業、製造業などである。

図幅内関係町村の就業構造は第4表のとおりであり、第1次産業が55%で著しく割合が高い。

農産物は米、シイタケ、栗などであり、養蚕や材木の生産も盛んである。

## 6 開発の現状と方向

当地区に関連した主要な開発プロジェクトとしては、四国西南山地大規模林業圏開発事業がある。

### 四国西南山地大規模林業圏開発事業

高知県の中西部と愛媛県の西部にわたる722,000 haを対象地区に昭和60年を目標年次として、

- ① 拡大造林を推進し、建築用材等の供給基地化
- ② 就労の場の拡大及び労働環境の改善
- ③ 木材関連産業の近代化及び木材流通の合理化
- ④ 水資源の涵養及び防災面での森林機能の整備
- ⑤ 林道網の整備拡充
- ⑥ 自然の保護及び森林レクリエーションエリアの整備
- ⑦ 国道197号(高研山地区)改修計画

を図ることになっている。

図幅内の主要事業としては、大規模計画造林を中心として、林道網の整備があげられる。図幅内を縦断する大規模林道清水東津野線(延長1308 Km)、中核林道音地大畑線(延長18 Km)、大道藤の川線(延長27 Km)は単に森林開発にとどまらず農山村の生産物輸送、観光、生活等多方面にわたる利用が可能で、極めて重要な機能をもつことになる。

第4表 産業別就業者数

昭和50年10月1日

県名	市町村名	区分	総数	第1次産業				第2次産業				第3次産業				不明	構成比(%)		
				計	農業	林業	水産業	計	建設業	うちうち	うちうち	計	小売業	うちうち	うちうち		うちうち	第1次産業	第2次産業
高知	幡多郡	十和村	2480	1430	1260	170	-	410	255	155	630	180	80	245	10	58	17	25	
			2115	1060	750	305	5	460	240	220	605	200	90	235	-	50	22	28	
			2590	1585	1280	300	5	345	205	130	670	155	60	340	-	61	13	26	
高岡郡	梺原町	計	2950	1400	1070	330	-	695	460	220	850	225	110	355	10	47	24	29	
			10135	5475	4360	1105	10	1910	1160	725	2755	760	340	1175	20	54	19	27	
愛媛	北宇和島郡	日吉村	1390	735	655	80	-	215	80	135	440	145	70	185	-	53	15	32	
			6545	2835	2770	50	15	1535	525	1010	2175	735	265	850	5	43	24	33	
			2920	1550	1515	35	-	505	190	315	860	335	130	275	-	53	17	30	
松野町	計	計	10855	5120	4940	165	15	2255	795	1460	3475	1215	465	1310	5	47	21	32	
			20990	10595	9300	1270	25	4165	1955	2185	6230	1975	805	2485	25	50	20	30	

資料 昭和50年国勢調査の概数による。(概数により不実合)

第5表 土地利用の概況

県名	市町村名	区分	総面積				耕地面積				林野面積				ha		%	
			計	田	畑	樹園地採草地	計	田	畑	樹園地採草地	計	現況森林面積	人工林	森林以外の面積	その他積	耕地率	林野率	その他率
高知県	幡多郡十和村		16,360	423	224	22	177	-	14,944	14,814	5,673	130	993	2.6	91.3	6.1		
	"	大正町	19,951	308	221	39	48	-	18,252	18,251	2,074	1	1,391	1.5	91.5	7.0		
	"	西土佐村	24,790	551	352	43	156	-	22,873	22,858	10,747	15	1,366	2.2	92.3	5.5		
	高岡郡構原町		23,634	650	271	113	226	40	19,895	19,120	9,531	775	3,089	2.7	84.2	13.1		
愛媛県		計	84,735	1,932	1,068	217	607	40	75,964	75,043	28,025	921	6,839	2.3	89.6	8.1		
	北宇和島郡日吉村		8,891	319	112	37	170	-	8,291	8,290	4,624	1	281	3.6	93.2	3.2		
	"	広見町	15,231	1,730	991	203	518	16	12,288	12,288	7,076	-	1,213	11.4	80.7	7.9		
	"	松野町	9,866	761	458	40	263	-	8,418	8,418	5,511	-	687	7.7	85.3	7.0		
		計	33,988	2,810	1,561	280	951	16	28,997	28,996	17,211	1	2,181	8.3	85.3	6.4		
	合計	118,723	4,742	2,629	497	1,558	56	104,961	104,039	45,236	922	9,020	4.0	88.4	7.6			

資料 1. 総面積は高知県統計書、愛媛県統計年鑑による。(昭和49年10月1日現在)

2. 耕地および林野面積は、第21次高知、愛媛農林水産統計年報による。

# 各論

## I 地形分類図

「田野々」図幅がおおう範囲には、高知県西南部の幡多山地をはじめ、愛媛県南部との県境を作りだしている四国背梁山地、そしてその北東部の高幡山地など比較的起伏に富む山地群によって占められている。河川はこれら山地の間をぬって蛇行するものが多く、南下する栲原川、西流する四万十川（渡川）、そして吉野川とその支流広見川などの各河川が分布する。その沿岸には、かつての河川侵食がもたらした小起伏の山地や数多くの断片的な台地が残在分布している。

本図幅中には、いわゆる低地といえる地域はない。しかし周辺の山地との関係で相対的に低平な部分としての谷底低地が、図幅左上部に広見川中流の一部としてみとめることができるくらいである。

本図幅を次のような地形区に区分した。なお区分その他の基礎資料として起伏量区分図と切峯面図を作成した。前者を付加して参考資料とする。

### I 山 地

#### I a 四国背梁山地

##### I a 1 戸祇御前山－長山山地

##### I a 2 御在所山山地

#### I b 高幡山地

##### I b 1 鈴ヶ森－大畑山山地

##### I b 2 栲原川沿岸山地

#### I c 北幡山地

##### I c 1 古城－吹の峰山地

##### I c 2 四万十川沿岸山地

#### I d 幡多山地

##### I d 1 鷹の巣山－大中屋山山地

### II 丘陵・台地・低地

#### II a 鬼北盆地

##### II a 1 広見川低地（一部台地を含む）

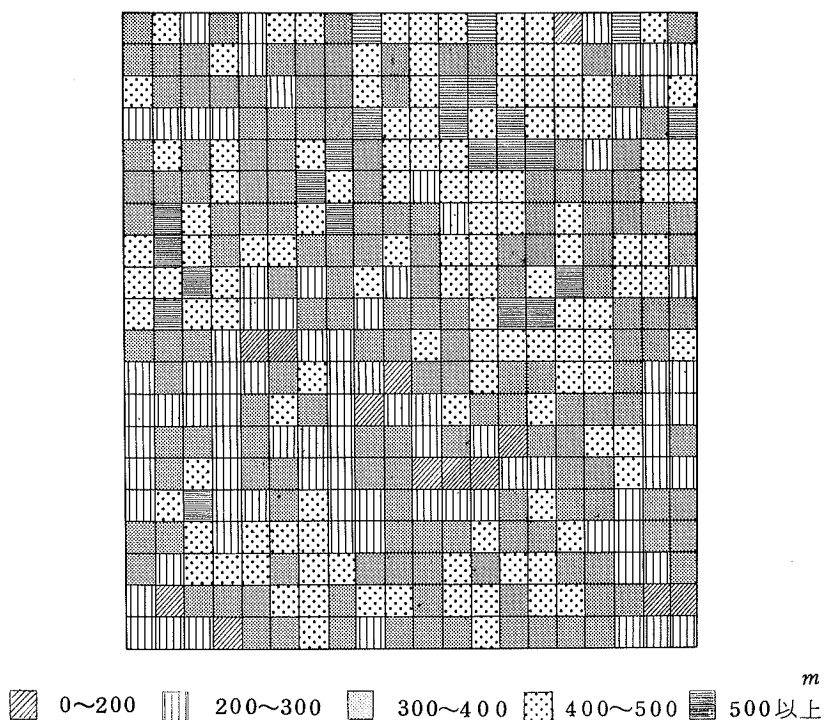


# 1 山 地 ( I )

## 1 - (1) 四国背梁山地 ( I a )

高知県と愛媛県との県境が位置する山陵の南部にあたるこの山地は、大きくとらえると大野ヶ原 - 雨包山 - 高研山 - 堂ヶ森等の南北方向に連なる山地群の一部で、戸祇御前山 - 長山山地 ( I a 1 ) のブロックとしてとらえられる山地である。またこのブロックは東西方向系地質構造につながる小山脈でもあり、この続きは西隣の「宇和島」図幅にその一部が入っている。この地域は白亜紀の地層からなり、山陵部には起伏量  $600m$  以上を含む大起伏部があり、その山脚は、この図幅では主として南北両側の中起伏山地として広がる。傾斜は  $30^{\circ} \sim 40^{\circ}$  の地域が最も広く分布する。総じて北側の広見川流域山地より、南側斜面にあたる地吉から大道にかけての地域にはげしい侵食傾向がみられる。谷密度は、 $40 \sim 55$  本/ $\text{km}^2$  程度の山地である。

「田野々」起伏量区分図



一方、広見川北西岸にのびる御在所山山地（I a 2）は、「宇和島」図幅より続く法花津山脈の一部であって、いわゆる法花津地壘を形成している仏像構造線以南の台部にあたる山地である。地形的特徴は、前述のI a 1 山地の広見川以南地域とほぼ同様であるが、谷密度では30～40本/Km<sup>2</sup>と前者に比較して少なく、山頂部に緩斜面を残している点などよりその開析度は低いようである。

#### 1 - (2) 高幡山地（I b）

高幡山地は大正町、窪川町から梶原町南部にかけての大中起伏山地で、本図にはその西端地域がふくまれる。地質的には、四万十帯の須崎層を基盤とし、その主体は鈴ヶ森（1054 m、「新田」図幅内）で西側の戸祇御前山－長山山地（I a 1）とは、地形・地質的にもほぼ同質の地域である。鈴ヶ森－大畑山山地（I b 1）と前述の（I a 1）によって形成されている東西方向の山地群を切る水系として梶原川の横谷がある。梶原川の沿岸地域は、I b 1 山地の山麓部にもあたるが、それは河川の強力な侵食力が山地の隆起運動量をしのぐ働きを示し、側方、下方ともにはげしく山麓を削って蛇行しながら南下するため、この先行性横谷の侵食によって形成された山地帯である。そしてその結果ともいえる特殊な地形がその沿岸に残されている。それは下津井、下道、大屋が内、西の川、江師、田野々と並ぶ明瞭な繞谷丘陵地形がそれである。繞谷丘陵は、馬蹄形に曲流した河川のくびれた部分が侵食のはげしさから直結して、かつての河道が干上ってしまった結果、その中央に孤立した丘陵状の小山が取り残されたものである。この旧河道は田野々などにみられるごとく、集落立地や耕作地として比較的安定した重要な生活の場を提供している。

#### 1 - (3) 北幡山地（I c）

北幡山地は幡多山地の北側、四万十川が西流する中流域周辺の中起伏および小起伏山地の総称である。本図幅では四万十川沿岸北部および西岸の古城－吹の峰山地（I c 1）と、沿岸および南側の一部の四万十川沿岸山地（I c 2）に区分される。

四万十川中流は、第三紀における幡多山地（I d）の緩やかな地盤隆起によってそれまでの南下直流の進路を断たれて西方に迂回する。この山地はもとの準平原性の小起伏山地であった地域が隆起に伴う河川の活発な下方、側方侵食の結果、定高性のみとめられる中小起伏山地となってきているのである。その中でも特に地吉～大道のブロックは、凹部状地域の傾向がみられる。

四万十川は日本でも代表的な穿入曲流河川として知られている。それは豊富な水

量によって、かって側方浸食し河幅を広げていた残形が、現在の河川沿いにその名残りをとどめている。その最大のもは、繞谷丘陵を含む旧河道である。現在形態の明瞭なものに大井川、田野々などがあり、同類は栲原川沿岸にもみられる。またより古い時代に形成され現在では形態の不明瞭なものに、十和村里川、西土佐村江川などがある。四万十川沿岸に散在する河成段丘と旧河道を概観するに、三段の段丘が確認され、最上位のもは、半クサリ礫によって特徴付けられる比高4～50mの上位段丘がある。層厚は1～2mで開析が進み、その分布は少ない。分布の比較的多くみられるのが中位段丘で、河床との比高20～30mである。それとほぼ同じ高度で分布する繞谷性の旧河道、そして比高10m前後の下位段丘は、谷底平野の様相を呈し、集落、水田などの立地がみられる。

#### 1-(4) 幡多山地 (Id)

幡多山地は地体構造上、四万十層群の一般的走向であるSWW-NEEの方向に支配され、その北辺を四万十川が西流し、さらに半家・江川崎付近で河川は横谷化して山体を東西に二分されている。この幡多山地は、「土佐中村」図幅に含まれる堂ヶ森(857m)を主体とする山地塊であり、鷹の巣-大中屋山山地(Id1)はその北部山脚にあたる。起伏量は350～450m/Km<sup>2</sup>、傾斜は30°～40°の地域が最も広く分布し、谷密度も40本/Km<sup>2</sup>と北岸のIc1地域とほぼ同様の山地形態を示す。なおこの地域には崩壊しやすい不安定斜面が点在する。

#### 2 丘陵・台地・低地 (II)

本図には、この項に入れるに十分な地域はみあたらない。丘陵に関しては、図幅西端で「宇和島」図幅と続く吉野川沿岸地域に、わずかな範囲で大起伏丘陵Heと小起伏丘陵Hsとが分布する。それは松丸盆地(宇和島図幅参照)の東端にあたる地域であって、本図地域に入って吉野川が急に狭谷化しているため、沿岸には台地を残す空間が殆んどなく、わずかな台地も比高が大きく全体に丘陵化している。なお、同類のもは四万十川本流沿岸にも数ヶ所見られる。また本流沿いの台地は、どれも連続性に乏しく、散在しているため、台地として大きく地域区分するまでには至らないので沿岸山地に一括してある。

広見川低地(IIa1)は、鬼北盆地(宇和島図幅参照)の北東部、広見川の谷底低地であって、その沿線の河岸段丘もこの区域に含まれている。それは上流ほど谷幅がせまく、台地の断片も小さくなっている。段丘は主に中位段丘であり、下位段丘

は、低地がすでに河床比高  $2 \sim 4 m^+$  あって、半ば台地化しているため区分がむづかしい。

#### 参 考 資 料

大塚弥之助(1927)：四万十川流域における曲流の研究，地理評 3, 5 397～419

甲藤 次郎(1974)：20万分の1高知県表層地質図(国土調査)，経済企画庁

西 和 彦(1974)：20万分の1高知県地形分類図(国土調査)，経済企画庁

(高知県立須崎高等学校 西 和 彦)

(愛媛県立大洲高等学校 芳我 幸正)

## Ⅱ 表層地質図

### 概 説

本地域は、地質学的には、西南日本外帯の四万十帯に属し、既刊の「大用」図幅の北側に位置する。

本地域の白亜系は、砂岩および砂岩がち泥岩との互層、砂岩・泥岩互層、泥岩および泥岩がち砂岩との互層からなり、これらの地層群は甲藤(1960)の須崎層および野々川層の一部に相当する。

このほか、段丘堆積物(洪積層)や河川ぞいの低地および谷底平野などには沖積層が分布する。

火成岩には、愛媛県地区に流紋岩および石英斑岩の小岩脈がある。

### 各 論

#### 1 未固結堆積物

##### 1-(1)砂・礫(sg)

本図幅で砂・礫堆積物としたのは、現河床堆積物であって、主として砂および砂礫からなる。

##### 1-(2)砂・礫および泥(sgm)

谷底平野・氾濫原性低地などに分布する沖積低地堆積物である。一般に、四万十川及び広見川にそう地域に狭長な分布を示す場合が多く、砂礫を主とする。谷底平野には泥が多くなる。

##### 1-(3)砂・礫および泥(g)

段丘堆積物であって、四万十川及び広見川にそう河岸段丘堆積物として所々に分布しており、砂礫層を主とし粘土層をはさむ。

#### 2 固結堆積物(白亜系)

##### 2-(1)砂岩および砂岩がち泥岩との互層(ss)

本地域の四万十川層群には中粒～粗粒の塊状砂岩の発達が著しい。砂岩は暗灰色で風化すると黄褐色となり、グレイワックに属する。また砂岩は、時として礫質を呈し、黒色泥岩の破片を含むことが多い。

## 2-(2)砂岩泥岩互層 (a1)

砂岩泥岩の互層としたものには、それぞれの厚さが数cmから数mのものまで含まれる。互層をなす砂岩には級化層理や葉理が発達しているものが認められる。

## 2-(3)泥岩および泥岩がち砂岩との互層 (ms)

泥岩および泥岩がち砂岩・泥岩互層で、一般に泥岩卓越層のことであり、泥岩は一般に暗灰色塊状であるが、地域的には砂岩とよく整層し、或いはレンズ状砂岩を挟在する。また凝灰岩類を挟在する。

# 3 火山性岩石

## 3-(1)流紋岩 (Lp)

愛媛県地区の四万十川層群に貫入した小岩脈で、帯緑灰色～灰白色を呈する緻密な岩石で、時に正長石・石英の斑晶が認められる。

# 4 半深成岩

## 4-(1)石英斑岩 (Qp)

愛媛県地区の日吉村藤川に露出する四万十川層群に貫入した小岩脈である。

# 応用地質

地入り指定地区：高知県地内に5地区あるが、崖錐性の地入り地区であって、規模は小さいようである。

鉱床：現在稼行中の鉱山はない。愛媛県北宇郡日吉村藤川の双葉水銀鉱山は、1895年（明治28年）には月産30Kgの水銀を生産し、明治42年休山、その後断続して稼行されたが、現在休山中である。

鉱石は辰砂と少量の自然水銀である。

# 文 献

- 1 檜垣淳・豊田英義・野間泰二（1955）：愛媛県北宇和郡日吉村双葉水銀鉱山調査報告，愛媛県地下資源資料，1 32-36
- 2 甲藤次郎・小島文兒・沢村武雄・須鎗和巳（1960, 1961）：20万分の1高知県地質鉱産図及び同説明書，高知県
- 3 甲藤次郎（1969）：高知県の地質，高知市民図書館
- 4 甲藤次郎（1974）：20万分の1高知県表層地質図（国土調査），経済企画庁

- 5 甲藤次郎・三井忍(1974)：5万分の1表層地質図「宿毛・土佐中村」および同説明書
- 6 甲藤次郎(1976)：5万分の1表層地質図「大用」および同説明書
- 7 芝光恭(1967)：愛媛県北宇和郡日吉村の地質ならびに宇和島周辺中・古生界の砂岩重鉱物組成，地学研究，18(1)，8 - 12
- 8 渡辺武男・沢村武雄・宮久三千年(1973)：日本地方鉱床誌「四国地方」，178-179

(高知大学文理学部	甲藤 次郎)
(今治明德短期大学	永井 浩三)
(愛媛大学教育学部	坂上 澄夫)
(愛媛県立八幡浜高等学校	友沢 悟)
(北宇和郡松野町立松野中学校	芝 光 恭)
(愛媛大学理学部	鹿島 愛彦)

## Ⅲ 土 壤 図

### 1 山地及び丘陵地の土壤

#### 概 説

図幅内は、蛇行・屈曲の大きい四万十川本流が流下し、県境部の地藏山(1,096m)笹平山(1,034m)を主体とする高幡山地と、大用図幅の富山地域にある堂ヶ森(857m)不動山(780m)を主体とする幡多山地にはさまれた、凹地形を形成している。

図幅内の林地土壤の多くは、褐色森林土によって占められており、主要稜線には高月統・富山1統が見られ、山腹斜面の大部分には、広見統・富山2統が分布し、谷筋部の一部には、滑床統・富山3統が見られ、木材生産に適した、生産力の高い土壤の分布が多い。四万十川および各支流の多くには、段丘地形部が見られ、褐色森林土(赤褐系)・(黄褐系)の土壤分布が見られ、生産力はやや劣っている。稜線部の緩傾斜地には黒色土の分布が見られ、造林等の各種作業には好適の傾斜であり、生産力は高い。

#### 1-(1) 乾性褐色森林土壤

##### 高月 統

この土壤は、主要稜線上に分布する砂岩を母材とした、やや音地がかった土壤で、A<sub>0</sub>層が厚く堆積し、その下に暗褐色のH-A層(3~4cm)とA層(3~4cm)があり、橙色のB層との境は比較的明瞭である。H-A層およびA層は細粒状並びに粒状構造で堅密度はやや鬆である。B層は特別な構造の発達は見られず、比較的堅い。この土壤には天然生の照葉樹とアカマツがみられるが、自然保護の立場から林種転換を行わず、天然生材のまま残す方がよいと考えられる。また、この土壤にヒノキの人工造林を行なっているところがあるが、成長は非常に悪く、雑木に覆われつつあり、このようなところに植栽する場合は、充分な手入れ管理を行なうことが大切で、特に林地肥培等も考えるべきであると思われる。

##### 富山 1 統

高幡山地、幡多山地で一般的に、峰筋を中心とした分布の見られる土壤である。地表には腐植層の発達が見られるが、特にH層又はF-H層の発達が多く見られる。この地域でも民有林の多くは林地の粗放な扱いが原因で、腐植層は破損された地区が多い。一般的にはA層の発達が認められる地区が多く、生産性は概して良好であ



る。

### 1-(2) 褐色森林土壌

#### 広見統

この土壌は、山腹から谷筋にかけて広く分布する匍行～崩積の土壌で、A<sub>0</sub>層は薄く、黒褐～褐色の腐植に富んだA層が25～30cmくらいあり、堅密度はやや鬆～軟で、上部には団粒状構造があるが、下部には特別な構造はみられない。にぶい褐色のB層との境は判然としているが、有効土層は50cmくらいあり、スギの人工林は、中程度の成長であるが、ヒノキの人工林は、より成長をしている。

#### 富山2統

高幡山地、幡多山地では一般的に分布の見られる土壌であるが、山腹斜面上部および西・南斜面に多く見られる。地表には、発達の弱い腐植層が見られるが、民有林地では破損された地区が多い。A層の発達は良好であり、土壌層の堆積も軟らかく、生産性は良好であり、ヒノキの人工林には好適の土壌である。急傾斜地にあつては、土壌層の堆積が不安定であり、表土の移動が見られるので注意が必要である。

#### 滑床統

この土壌は、谷筋等の湿った環境下に分布する崩積の土壌で、A<sub>0</sub>層はL層のみで薄く、腐植に富んだ黒褐(A<sub>1</sub>)～暗褐(A<sub>2</sub>)が30～35cmある。土壌構造は母材が砂岩のため判然とし難いが、上部には団粒状構造がみられ、下部には塊状構造がみられる場合もある。にぶい褐色のB層も比較的軟らかく、スギの人工林の成長はよい。

#### 富山3統

高幡山地、幡多山地で見られるが、北面の山腹斜面下部から谷筋にかけての相対的に緩傾斜の部分に分布の見られる土壌である。一般的には腐植層の発達は見られないが、A層の発達は極めて良好であり、土壌層の堆積も軟らかく、生産性は極めて良好であり、スギの造林に好適の土壌である。ヒノキの造林にはやや過湿の条件を持つ地区があるので、注意が必要である。

### 1-(3) 褐色森林土壌(黄褐系)

#### 泉が森統

この土壌は、比較的標高の低い尾根筋、凸斜面上に局部的に分布している乾性の黄褐系褐色森林土壌で、乾燥のためA<sub>0</sub>層が厚く堆積し、その下に細粒状構造で腐

植に富んだ黒褐色のA層が3～4 cmあり、黄褐のB層との境は明瞭である。A層は鬆であるが、B層は軟～堅で、全体の土層は比較的浅く、天然生アカマツ、シイ、カン類等の成長はよいが、人工造林によるヒノキの成長は、きわめて悪い。

### 中筋 3 統

河岸段丘の峯筋で、相対的な緩傾斜地に分布の見られる土壌である。腐植層の発達は見られるが、分布の多くが民有林であり破損された部分が多い。黄褐系の性質が強く見られる土壌であるが、部分的には赤褐系の性質も残されており、さらに褐色森林土の色調の部分も混在している。この3者の出現と地形との関連は概略次のとおりである。赤褐系－峯筋中央部で緩傾斜の部分に狭少な分布が見られる。黄褐系－峯筋で傾斜がやや急な部分及び峯筋の中央部から斜面を下った部分に分布が見られる。褐色森林土－傾斜の急な部分および斜面の下部に分布が見られる。この土壌の地区では一般的に土壌層は深い、堆積は堅密な地区が多い。A層の発達は弱いが、ほとんどの地区で見られ、生産性は概して良好である。

### 和霊統

この土壌は、泉が森統のすぐ下で、山腹から中部にかけて分布している土壌で、A<sub>0</sub>層は比較的薄く、暗褐色の腐植を含んだA層が20 cmくらいある。土壌構造は特別な発達は見られない。褐色のA－B層を挟んで黄褐のB層があり、有効土層は45～50 cmくらいある。人工造材でヒノキの成長はよいが、スギの成長は中程度である。

### 中筋 4 統

河岸段丘地形で相対的な緩傾斜地の山腹斜面および谷筋部に分布の見られる土壌である。地表には弱い腐植層の発達が見られるが、民有林地では破損された地区が多い。黄褐系の性質が見られる地区が多いが、褐色森林土の色調の部分と混在している。黄褐系の性質の地区は、相対的な緩傾斜地に見られ、山腹斜面の上・中部の分布が多い。褐色森林土の地区はやや傾斜の急な部分および山腹斜面下部や谷筋に見られる。ヒノキの造林には適している。

#### 1-(4) 褐色森林土壌（赤褐系）

### 筆山統

赤色風化の影響が残された土壌で、地表には薄い腐植層は見られるが、破損された地区が多い。一般にA層は色が淡く、層厚も薄く、B層およびC層の色調は赤味が

強く、土壌層の堆積は堅密である。林木の生産力は低い、分布は丘陵地形等の緩傾斜地に限られているので、耕耘・施肥による土地利用には適している。

### 1-(5) 黒色土壌

#### 大黒山統

高嶺山地、嶺多山地の高位部にある峯筋で、幅広い緩傾斜の部分に見られる土壌である。弱い A<sub>0</sub> 層の発達が見られるが、F 層が主体となる部分が多い。A 層は深さの発達は良好であるが、構造の発達は悪く、団粒状～粒状構造の見られる、薄い A<sub>1</sub> 層が見られるだけで、A<sub>2</sub> 層および B 層はともに構造の発達は見られない。凹地形部に見られるこの土壌の、B 層又は B<sub>2</sub> 層の一部に、やや灰褐色傾向の、湿性の性質の見られる部分がある。凸地形部の相対的な傾斜地以外では、ヒノキの造林には、やや過湿の条件の部分が多く、スギの成長も直径成長は良好であるが、樹高成長はやや劣る傾向が見られる。分布は、ほとんどの場合緩傾斜部であり、造林等の各種作業には好適の傾斜条件である。

(高知県林業試験場 入交 幸三)

(愛媛県林政課 清水 敬)

## 2 台地及び低地の土壌

### 概 説

水田は河川沿いの沖積地と、これに続く洪積台地および山腹の傾斜面に分布するが面積は狭くかつ分散している。畑地および樹園地は一部河川沿いの砂地にあるが、ほとんどは山腹傾斜面の崩積地に分布する。

### 2-(1) 砂丘未熟土壌

#### 内灘統

高知県の西土佐村江川崎の四万十川流域に分布し桑園として利用されている。河成堆積の砂質土壌で保肥力、保水性はともに悪いが有効土層が深いので、適切な施肥管理を行えば比較的生産力が高い。

### 2-(2) 多湿黒ボク土壌

#### 高松統

高知県十和村の四万十川中州上に数ヘクタール存在する。洪積世堆積の壤質火山

灰土壌で腐植にとむが、保水力、保肥力がやや悪いので施肥法に注意を要する。

### 2-(3) 褐色森林土壌

#### 最上統

愛媛県の広見町に分布する。主に桑園、茶園および落葉果樹園として利用されている。洪積世堆積様式をもち、強粘質で風化円礫層にとむ。酸性が強く、生産力は高くはない。

#### 丘辺田統

高知県の西土佐村、十和村、大正町、梶原町に分布し、普通畑、果樹園、桑園、茶園として利用されている。土性は粘質で有効土層が深いので生産力は高い。

#### 岩屋統

高知県は大正町、十和村に分布し、果樹園、桑園として利用されている。土性は粘質で、30～60 cm から礫層が現われるが、比較的生产力は高い。

愛媛県は日吉村に多く分布し、古生層堆積岩を母材とする粘質土で、礫に富み、崩積世堆積様式を示す。有効土層は比較的深く、桑、果樹等の永年作物に対する生産性は高い方に属する。

### 2-(4) 黄色土壌

#### 北多久統

高知県では西土佐村、十和村、大正町、梶原町に分布する山腹の階段水田で、粘質の土性をもち礫層はない。一般に生産力は高い。

愛媛県では日吉村にある。洪積台地上に分布することが多く、土性は粘質である。

#### 新野統

愛媛県広見町の洪積層、山麓緩傾斜地等に分布し、土性は粘質である。

### 2-(5) 褐色低地土壌

#### 井尻野統

愛媛県の広見町、松野町の洪積層に分布し、土性は粘質ないし壤質であるが、礫層の位置が浅く、保水性に乏しい。

### 2-(6) 細粒灰色低地土壌

#### 宝田統

愛媛県の広見町および日吉村にあり、沖積層、土性は粘質で土壌の生産性は高い。

### 多々良統

高知県の西土佐村，十和村に分布する粘質の沖積水田土壌で生産力は普通である。

### 2-(7) 粗粒質灰色低地土壌

#### 国領統

愛媛県の松野町，広見町および日吉村の河川沿いに分布し，礫層の位置が浅い。

#### 安来統

高知県の西土佐村に分布する砂壤土の沖積水田土壌で礫層はない。保肥力がやや小さいので施肥法に注意し珪カルを施用する。

#### 赤池統

高知県の十和村に分布する砂質の沖積水田土壌で，30～60 cm から礫層が出る。注意点は安来統に同じ。

( 高知県農林技術研究所 久保田増栄 )

( 愛媛県農業試験場 丹原 一寛 )

## IV 傾斜及び標高区分図

傾斜区分は、2万5千分の1地形図を作業基図とし、これを機械縮図したものである。したがって5万分の1地形図のコンター密度とは必ずしも一致していないがそれよりも詳細である。

傾斜区分図は、土地開発の応用的意義が高いので出来るだけ実際に細分化し、傾斜量の変化する境界を直径2mm(100m)の範囲まで追跡してある。しかし最小単位地形の全面が全く同一傾斜面で表現できるというのは低地か台地、または未開析準平原くらいに限られている。例えば尾根の幅員が100mのリミット以下であるような丘陵地などは、その丘頂面を見渡すレベルの勾配は直接記載されず、もっと細かい開析谷両側の斜面勾配が平均化されることになるので、かなり大きい現実の傾斜量となっている。しかしこのような地形は、その傾斜量いかにかわらざらば構成地質や微細谷の開析程度によっては、将来大がかりな地ならし工事も予想され、やがて砂礫台地なみの勾配に改造されることが可能であることも考慮に入れて判読されたい。

本図によって各傾斜パターンの分布を調べると、まず中間勾配の20°~30°未満および30°~40°未満は、ほぼ全域にわたって最も広い分布を示すパターンであり、全体的には約85%を占める。中でも大畑山、吹の峰、笹平山、鷹の巣山など標高約600m以上の山地に、広い括りのパターン分布がみられる。20°~30°未満の分布は、おおむね山体の背稜・斜稜付近にあって前輪廻性凸型斜面をなしている地域に、30°~40°未満は山体の周縁部をとりまいてひとときわ若く、凹型斜面の性格が強い地域を中心に分布している。

40°以上の急斜面は、まず四万十川本流沿岸をはじめ各支流の河川沿いに分布するものがある。これは本地域の緩慢な地盤隆起によって生じた河川自体の穿入曲流がその攻撃斜面に形成した急斜面である。次いで笹平山、鷹の巣山の山腹斜面に代表される早壮年性の凸斜面にみられる急斜面がある。後者は、地質的な岩質差及び地形的断層に沿う点においてその分布には一つのパターンがみられる。

15°~20°未満の低勾配は、鷹の巣山、大中尾山などの山頂にみられるように前輪廻性の凸斜面で、その括りは狭小長型のものが多い。

15°以下の低勾配は、山地の占める割合の多い本図にあってはその分布が限られ

ていて、広見川谷底低地とその沿岸段丘に最も幅広い地域としてとらえられる。その他は四万十川本流と各支流の形成する台地と旧河道などに限定される。しかしこれらの地域は、平坦低地の少ない本地域にとっては集約的土地利用の集中する貴重なパターンにあっている。

(高知県立須崎高等学校 西 和 彦)

(愛媛県立大洲高等学校 芳我 幸正)

(愛媛県立松山北高等学校 河 合 啓)

## V 水系・谷密度図

水系図は、河幅 1.5m 以上の河川の平面形現状を空中写真によって判読して、水系を当該写真上に表示したのち、これを基図に転記し現地調査の結果に基いて整理、補正して作成したものである。水系図では低地の主要水路及び山地・丘陵地・台地の開析谷の平面形の現状を示してある。

谷密度図は、水系図を基礎として土地の開析状態を数量的に表現するように地形区を縦横 40 等分し、その方眼区画の辺縁を切る谷の数の和を求め、その 20 等分区画すなわち前述の方眼区画の 4 区画の和で示した。

本図幅における河系は、四万十川本流とそれに注ぎ込む栲原川、愛媛県側より吉野川とその支流の広見川などが分布する。これらはどの河川も地質上の特徴である地層の一般走向 N 75°E に支配され、また、この地域内における曲動的な地盤の緩慢な隆起運動が影響して、全国的にもよく知られた穿入曲流を示し、平面形で顕著に表現されているごとくはげしい蛇行をくり返している。特に本流と大支流にその傾向を強くみることができる。しかしそれに注入する小支流は、概して樹枝状型を示している。

谷密度傾向は、概して高い部類に入り、数量的には 30~49 本/Km<sup>2</sup> が全体の 8 割を占めている。局部的に密度数が少ないのは、北部では笹平山付近、南部の鷹の森山付近である。

( 高知県立須崎高等学校 西 和 彦 )

( 愛媛県立大洲高等学校 芳我 幸正 )

( 愛媛県立松山北高等学校 河 合 啓 )



## VI 防 災 図

地這り防止区域は、高知県大正町の森が内および同十和村の屋敷、轟、今成、実弘にあるが、何れも崖錐の匍行によるものであって小規模である。愛媛県地域には該当箇所はない。

急傾斜地崩かい危険区域は、高知県地域には十和村昭和町、河内に、また愛媛県地域には松野町の下組、市ノ又、本村、中組、上組、遊鶴羽などにある。

水害としては、高知県地域では、四万十川に沿う旧河床あとの繞谷が、冠水したり或いはその後の排水が悪くて滞水する例が少なくない。

高知県大正町瀬里では、昭和51年6月に予土線にそう大崩かいがあったが、これは鉄道工事に伴う人為的要素が誘因となったであろう。

また愛媛県では昭和50年の台風5号によって、日吉村藤川の奥藤川の山地1万 $m^2$ が崩かい、同村父野川の野々谷で土石流が発生して、家屋1棟が半壊した。同年台風6号では、広見町高瀬で住宅の裏山が幅10 $m$ 、高さ70～80 $m$ 崩かいして住宅1棟が全壊した。昭和51年台風17号では、日吉村日向谷川の護岸が208 $m$ 区間欠壊した。

( 高知大学文理学部 甲藤次郎 )

( 今治明德短期大学 永井浩三 )

( 愛媛県農林水産部農地計画課 )

## Ⅶ 土地利用現況図

(高知県)

### 1 林 地

本地域は、梶原町西南部地区には、スギ、ヒノキの人工林針葉樹が60%を占めるのを始め、西土佐村南部および十和村北部並びに南部に、また大正町西南部地方に主团的に植林されているが、その大部分が公社、公団、県有および町村有林即ち公有林で、林令は10年〜20年となっており、その他個人有林の人工林針葉樹については、小規模面積で、林令は5年〜15年生が多く散在している。

人工林広葉樹は、最近特に地場産業として取り入れている林業構造改善事業および山村振興事業等により新植されているがその面積は小規模である。

天然林広葉樹帯は、本地域の北部に大部分を占めるが、生育状況は極めて良好である。

天然林広葉樹は、部落集落附近を主体として林野面積の約50%を占めており、樹種はシイ、カシ類およびナラ、クヌギ、シデ、カエデ、サクラその他落葉樹等より森林を構成しているが、特に本地域は、高知県下でも最大のシイタケ生産地である故ナラ、クヌギが全体の20%を占めている。

混交林、竹林については、粗悪林地に散在しもっか自家林として活用されているにすぎない。

以上の様に本地域は、林業地として高要素を充たしているが、今後林地の改良指導によりさらに人工林率が伸びることであろう。

### 2 農 地

本地域には、水田、普通畑、果樹園、桑園及び茶園が散在している。水田は、四万十川の沖積水田が主体で、中稲の単作が行われる。普通畑は、山腹の緩斜面を利用し、主な栽培作物は、甘藷である。果樹園は栗が主体であるが、面積はごく少ない。一方桑園と茶園の面積は多く、前者は西土佐村に集中しているが、茶園はその他十和村及び大正町にも多く、山間農業の基幹作物になっている。

(高知県林業課

十万 喜隆)

(高知県林業課 久野和三郎)

(高知県農林技術研究所 久保田増栄)

(愛媛県)

本図幅には愛媛県北宇和郡広見町東部、松野町東部、及び日吉村南部が含まれている。本地域は四万十川上流の広見川流域に属し、南の高知県とは本図幅の北端中央部に位置する地蔵山(標高1,096m)からほぼ西南西に連なる標高1,000m~700m級の山地からなる分水嶺と、松野町奥野川東部の杖峠(標高約250m)から南方に連なる標高400m~500m級の山地によっておおむね境されている。

本地域は殆ど林地で占められているので、土地利用現況図を作成するにあたっては、昭和46年8月測図の愛媛県森林基本図(5,000分の1)をベースマップとして使用し、これを県林業課提供の最新の資料により修正の上縮小する方法を採用した。なお航空写真(昭和49年11月21日撮影)も若干参考にした。

## 1 林 地

(1) 所有形態 3町村全体の林地所有形態は下表の通りである。

	広見町	松野町	日吉村	3町村
国有林	10%	22%	16%	16%
公有林	6%	10%	5%	7%
私有林	84%	68%	79%	77%
計	100%	100%	100%	100%

なお本図幅の範囲については日吉村東端の地蔵山付近の国有林、広見町東端部及び戸祇御前山付近の官行林、及び広見町(5か所)、日吉村(2か所)、松野町(3か所)にそれぞれ点在する公有林の他はすべて私有林となっている。

(2) 樹 種 国有林、官行林は殆どヒノキとスギの人工林で、大方はヒノキである。公有林はヒノキ、スギの人工林とマワ類が主体となっている。私有林は人工林針葉樹(ヒノキ、スギ)、天然林針葉樹(主としてマワ類)、天然林(クヌギその他各種広葉樹)、竹林の4つに区分した。全体として私有林は人工林針葉樹が多く、ついで天然林となっている。

なお参考までに上記3町村全域における各樹種の構成比をあげると下記の通りである。

樹種	広見町(%)	松野町(%)	日吉村(%)	区分
マワ	21.0	14.5	11.2	天然林針葉樹
スギ	23.3	20.0	25.1	人工林針葉樹
ヒノキ	34.7	35.9	29.6	
クスギ	1.7	0.7	1.9	天然林
雑木 (各種広葉樹)	17.7	26.6	31.0	
その他	1.6	2.3	1.2	
計	100.0	100.0	100.0	

(3) 保安林 高知県境一帯の山林は水源涵養林の指定を受けているものが多い。

## 2 農 地

農地は広見川に沿った細長い谷底平坦面やその周辺の緩傾斜面、河岸段丘面等にならずかに分布し、本図では水田、普通畑、果樹園、桑畑の4つに区分した。

(1) 水田 殆どの水田は川沿いの水積による土壌の地域に帯状に分布しているが、日吉村上大野付近では洪積層の上に開かれている。水田土壌はいずれも非固結水成岩を母材とするもので、本図幅の範囲では国領統(下鍵山を除く日吉村一帯)、宝田統(下鍵山)、北多久統(日吉村大野)、井尻野統(松野町一帯)の4種類のものがある。なお水田経営面積は3町村共に45年から50年にかけて減少傾向にある。また麦作は殆ど行われていない。

(2) 普通畑 普通畑は水田より一段高まった河岸段丘上や、川に沿う崩積土壌の地域に多く分布する。本図幅中の畑土壌としては大久保統(日吉村上大野付近)、谷川統(上大野付近以外の日吉村一帯)、平山統(広見町)の3種類のものがみられる。経営面積は3町村とも40年から50年にかけて水田よりも一層減少が著しく、日吉村では上記期間中に3分の1以下になっている。主な畑作物としては牧草、青刈とうもろこし等の飼料作物、及び野菜、かんしょ、工芸作物等があげられる。

(3) 果樹園 田畑の減少傾向に対し、果樹園は増加傾向を示し、3町村全体

についてそれぞれ40年と50年を比較すると、広見町では1.7倍、松野町では2倍、日吉村では2.6倍と急激な増加を示している。果樹は殆どクリで場所により僅かにカキが栽培されている。クリ栽培は3町村中広見町がもっとも盛んで、その理由は県及び町当局の積極的指導があったこと、県落葉果樹試験場が開設されたこと等によるようである。

(4) 桑園 クリ栽培について養蚕も本地域ではかなり盛んである。桑園面積は40年より47、48年にかけて3町村全体で約1.3倍の増加を示した。しかし石油危機以来の繊維業界の厳しい経済情勢を反映して近年は停滞あるいは減少傾向を示している。

### 3 村 落

本図幅中日吉村下鍵山及びほか1.2を除くと見るべきものはない。学校は村落（住宅地）として分類した。

### 4 参 考 資 料

- (1) 愛媛県森林基本図（5,000分の1、昭和46年8月測図）
- (2) 航空写真（1974年11月21日撮影、日本林業技術協会発行）
- (3) 愛媛農林水産統計年報（昭和49～50年、中国四国農政局愛媛統計情報事務所発行）
- (4) 統計からみた市町村のすがた  
愛媛県市町村別主要統計指標（昭和50年度版、愛媛県統計協会発行）
- (5) 広見町農業の現況と展望（昭和49年12月、中国四国農政局発行）
- (6) 水田および畑地土壌生産性分級図－愛媛県広見川流域－（昭和49年11月、愛媛県農業試験場発行）

（愛媛県立松山北高等学校 河 合 啓）

1977年3月 印刷発行

南予総合開発地域  
西南開発地域  
土地分類基本調査  
田野々

編集発行 高知県企画部 土地課  
高知県高知市丸の内1丁目2-20

愛媛県農林水産部 農地計画課  
愛媛県松山市一番町4丁目4-2

印刷 内外地図株式会社  
東京都千代田区神田小川町3-22